

【数字を読み解く】2.3倍

～5月の公共工事請負金額前年比伸び率 20年7月豪雨復旧などで高水準～
<2021/7/2 大分合同新聞掲載>

数字は、公共工事の前払い金保証事業を行う西日本建設業保証が毎月公表する「公共工事前払金保証統計」にある、5月の大分県における公共工事請負金額の前年比伸び率だ。

この統計は、国、都道府県、市区町村、その他の公共団体が発注する土木建築工事および測量について、前払金保証制度が利用された案件の請負金額を集計したもので、公共工事の発注の多くをカバーしている。他の統計と比較して速報性が高いことから、公共工事の発注動向を捉える統計として幅広く利用されている。

大分県における5月の公共工事請負金額は117.5億円と、前年(51.3億円)の約2.3倍となった。これは、直近5年における5月の平均値(56.2億円)と比較しても、極めて高い水準だ。

例年、4～6月は工事案件が比較的少ない時期であるが、本年度は2020年7月豪雨にかかる災害復旧工事の大型案件がみられたほか、前年度から繰り越された工事案件も多く、請負金額が増加した。この間、一部の建設会社からは、「人手不足感が強く、工事の応札案件を絞り込まざるを得ない」との声が聞かれ、行政機関では、こうした業者の入札参加を促す観点から施工時期の平準化や、工事の細分化発注を行う動きがみられている。

公共工事の先行きは、災害復旧工事や国土強靱化計画に基づく減災・防災工事を中心に増加するとみられるが、建設業における人手不足が及ぼす影響について注視する必要がある。(日本銀行大分支店)